

三鷹まちづくり総合研究所「第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会」

(第3回議事録要旨)

日時 平成21年10月1日(木)午後7時～9時20分

会場 三鷹ネットワーク大学

出席者 中村陽一(座長)、江上渉(座長代行)、濱野周泰、木村忠正、高山由美子、河村孝、河野康之、竹内富士夫

ゲストスピーカー 住民協議会からの出席者(伊東健吉氏、新守一氏、畑谷貴美子氏、佐藤徹恵氏、井伊良男氏)

事務局側 企画経営室、まちづくり推進課、三鷹ネットワーク大学、

(議事要旨)

(注) この議事録は抄録であり、すべての発言が掲載されているものではありません。

1. 第4次基本計画策定等における市民参加のあり方について

出席者自己紹介、事務局から資料説明(略)

○住民協議会委員

第4次基本計画策定等の策定に向けた各住区の市民参加については、市が、市全体のあり方を踏まえて、各住区ごとの課題や今後のまちづくりのあり方などを整理し、問題提起して取り組みを進めるべきである。各住区がバラバラに考えていては、全体を通したまちづくりの方針はできてこない。その意味では、各地区ごとの「まちあるき」と懇談会を通して、そこで出された意見を市が吸い上げて、各種の計画に反映させればよいのではないか。

○住民協議会委員

まずは、市民は自分の住んでいる地域について考えるとともに、全体をつなぎ合わせる役割を市の方でやってもらいたい。

○河村研究員

住区単位と市域全体の両方が必要だ。緑と水の回遊ルートでいえば、当然、住区を越えたルートづくりが必要だし、新しく参加する人の新しい視点と発想も重要だ。

○河野研究員

風景づくり計画の取り組みで考えている「三鷹の風景百選」などでは、地域の人しか知らない裏道なども推薦してもらえる。

○住民協議会委員

井の頭地区は、町全体が公園化していて地域の家の庭先の花を近所の人が見に来たりする。こうした地域の特性も重要だ。各住区から出されたものを市域全体でつなげていくことも重要である。

○まちづくり推進課

風景づくり計画では、他の計画を補完して生産緑地の多い地域では、その環境を守るとともに、地域の特性を生かしたまちづくりを進めていきたい。

○河村研究員

コミュニティ・カルテからまちづくりプランが生まれ、それを機に三鷹市は緑と水の公園都市を目指すことになった。ガーデニングフェスタや花と緑の創造協会などの取組みもやってきたが、それ以外にも、風景づくり計画や条例によって、誘導や規制的な手法も用いながら、まち全体がよくなっていくようにしたい。また条例等で規制するだけでなく、三鷹百景などの事業から新たに注目されるまちづくりを進めていきたい。

○住民協議会委員

自分の生活だけで孤立して暮らしている人がたくさんいる。花と緑があふれて人と人が付き合えて、隣同士で気軽に声をかけられるまちづくりが一番大切である。

○江上研究員

もしそういうことであれば、まちあるきに加えて、ワークショップ的な手法も取り込みながら、住協だけではなく地域で余り関心を持っていなかった人が興味を持って参加できるような取組みができないか。また、市民とのやり取りの中で出てきたものを整理して、いずれかの計画に活かせるものは行政の役割として反映させてもらいたい。

○中村座長

形式的な市民参加ではなくて、何か今までとは違う新しく夢のある発想のものが引き出せないか。ワークショップは有効だが、そのときに市側としての問題意識とか軸になるようなものを整理して提示することが必要だ。

○住民協議会委員

丸池のワークショップは子供からお年寄りまで、地域の方が時間をかけて進めた。やはり地域をある程度狭めないでワークショップで地域の人たちを集めることはできないのではないか。

○河村研究員

題材が決まれば、ワークショップは威力を発揮する。丸池のまちづくりプランではいくつも提案があり、そのうちの1つがあれだけ大きくなって行政が予想もできない素晴らしい展開になった。

○住民協議会委員

連雀地区では人に集まってもらえるように、テーマや目的を工夫している。今は花壇づくりを行って、個々の家庭や公園から花と緑のまちを推進していきたいと思う。

○住民協議会委員

井の頭の手のひら公園のワークショップのように小さいものでも参加者全員が公園を中心に集まり、完成後は運営を任されて、その中で行事をやることで一体感ができ、ずいぶん変わった。

○住民協議会委員

丸池公園については中原小、東台小だけでなく、北野小や一小の方も掃除してくれている。三鷹市の財産ともいえるべきものになった。ここを中心にいろんな人が関わり、お祭りも年々大きくなっている。

○中村座長

ワークショップでは枠組みを決めるという意味ではなく、ファシリテーターも活用して、何か議論がそこから出てくるような運営方法や仕組みを工夫する必要がある。

○住民協議会委員

今、連雀地区では、「エリアの中を歩きましょう」と言っている。スポーツや健康づくりだけではなく、やはりそういうときに、こういう視点でものを考えながら歩くことが重要と考える。

○中村座長

同時に各地域を超えた課題を、どのように集約するも検討課題だ。

○高山研究員

子供も参加して、希望と夢とを持って5年後、10年後のまちづくりを考えることも重要だ。また障がい福祉、介護福祉などの福祉の個別計画に関係する課題が提案されれば、それを担当部署につなぎ、反映させる市の取り組みが必要だ。

○河野研究員

いろいろな計画案を並べるのではなくて、まちづくりの課題や暮らしのテーマをわかりやすく話して、意見交換をしてもらい、それを行政の側でそれぞれの計画に割り振るといった工夫が必要だ。

○竹内研究員

今回の第4次基本計画は本格的な12年スパンの計画で市は全庁挙げて取り組む。住区単位の市民参加の前提として、もう一度町を歩いてもらって再発見してもらい、そこからスタートするのがいいのではないか。まちが変わっていることを確認して、多層・多層的な市民参加を考えていきたい。

○濱野研究員

個人の宅地内の樹木が街角のランドマークツリーになったり、ブロック塀を低木の生垣に変えたりと街並みを街路樹だけでなく、まちぐるみで変えていくことで景観として三鷹らしさを感じて欲しい。まちあるきでは、まちの雰囲気を感じの部分で感じることで、まちへの熱意が生まれてくるのではないか。

○木村研究員

スペインのバルセロナのまちづくりは、いかに人が行き交う場所をつくるかということに力点を置き、商店街に空き地ができると建物は建てず、カフェやテラスを設けている。目的は人の往来で、防犯カメラなどの機械に頼るのではなく、人の目による緩やかな安全・安心の体制を作ることにあつる。今回の計画作りではボトムアップで積み重ねていく部分と、「次の社会はどうしたらいいのか」を一定の人たちがコンセプトとして作り、それを問う部分との両方の部分が必要ではないかと考える。

○中村座長

今後は、本日の議論、特に住協の皆様意見を踏まえて、この研究会での議論を進めていきたい。